

妊娠、体重増加、IOM、ガイドライン、妊娠前カウンセリング1

2009年、IOMはこれまでの研究結果に基づき妊娠中の体重増加のガイドラインを改訂した。妊娠中の体重増加に関して多数の論文が発表され、この5年間に限っても1か月あたり平均10篇にも及んでいる。本号の「妊娠中の適正な体重増加の頻度とそれに関わる特性」と題する論文で妊娠中の体重増加の問題が指摘されている。Johnsonらは単胎妊娠の初産婦ではIOMが勧告した体重増加をこえているものは3/4にも及ぶと述べている。もし、妊婦がガイドライン内の体重増加に留まったならば、妊娠高血圧疾患、帝王切開率、LGAが顕著に減少すると述べられている。妊娠成立前に妊娠前の体重減少についてカウンセリングを提供することが有用な対応法であると考えられている。

Pregnancy and Weight Gain: We Have Observed Enough
Hickey, Elizabeth A.; Rouse, Dwight J.
Obstet Gynecol. 2015 Apr;125(4):771-772

【文献番号】o12210 (妊産婦管理、高齢妊娠、若年妊娠、肥満、糖尿病、運動、抑うつ)

妊娠、体重増加、BMI、リスク因子、疫学調査2

妊娠中に大部分の女性は勧告に沿わない体重増加をみている。不適切なまた過剰な体重増加と相関する要因について理解を深めることによって、リスクのあるまた介入の必要な女性を特定することができる。

Prevalence and Characteristics Associated With Gestational Weight Gain Adequacy
Deputy, Nicholas P.; Sharma, Andrea J.; Kim, Shin Y.; Hinkle, Stefanie N.
Obstet Gynecol. 2015 Apr;125(4):773-781

【文献番号】o12210 (妊産婦管理、高齢妊娠、若年妊娠、肥満、糖尿病、運動、抑うつ)

死産、定義、疫学調査、出産統計7

死産といってもその原因は多様で、死産であったということは単なるその結果を述べているに過ぎない。死産の前の状況に関して理解を深めることで、死産を予防することができる可能性もある。死産のデータは州やメトロポリタン領域で分散処理され、最終的にはCDCの全国保健統計センターでまとめられる。データの質に問題を起こす要因として、死産の定義が州や地域によって異なっている点である。死産の調査には大規模なデータを用いた研究が必要であるが、死産の定義が一定するまで適切な比較ができない。本誌にJosephらは死産の定義と登録システムに関する研究結果を報告している。死産証明書には胎児死亡の妊娠週数を記載し、さらに死産になった時点の分娩週数も記載すべきである。死産にかかわる基本的な定義などについて話し合い、一致点を生み出すことによって死産という世界的な悲劇に積極的に取り込むことができる。

Stillbirth and Fetal Death: Time for Standard Definitions and Improved Reporting
Jackson, Marc
Obstet Gynecol. 2015 Apr;125(4):782-783

【文献番号】o10100 (周産期死亡、死産、胎児死亡、新生児死亡、乳児死亡、新生児合併症)

死産、胎児死亡、登録システム、定義8

胎児死亡や死産の定義や方法に関する問題について検討されなければならないことが多数存在する死産の登録法などに関しても新しい様式にする必要があるが、悲しみに沈む家族、選択的胎児減数手術への配慮も必要である。この論文は胎児死亡の定義、登録の基準、関連する方法などに関して国際的なコンセンサスが必要であることを述べたものである。

Rationalizing Definitions and Procedures for Optimizing Clinical Care and Public Health in Fetal Death and Stillbirth
Joseph, K.S.; Kinniburgh, Brooke; Hutcheon, Jennifer A.; Mehrabadi, Azar; Dahlgren, Leanne; Basso, Melanie; Davies, Cheryl; Lee, Lily
Obstet Gynecol. 2015 Apr;125(4):784-788

【文献番号】o10100 (周産期死亡、死産、胎児死亡、新生児死亡、乳児死亡、新生児合併症)

経膣分娩、子宮内膜炎、抗生物質療法、経口投与、筋注法、系統的レビュー、妥当性9

今回の系統的レビューの結果、経膣分娩後の産褥早期の子宮内膜炎に対して抗生物質の経口投与、筋注法および併用法などの有用性が示唆されたがさらに検討してみる必要があるという結果が得られた臨床治験を行う際には臨床的有用性、安全性、副作用のプロフィール、対象となった人々の背景も考慮した治療法の妥当性などについて考えてみる必要がある。

Oral and Intramuscular Treatment Options for Early Postpartum Endometritis in Low-Resource Settings: A Systematic Review
Meaney-Delman, Dana; Bartlett, Linda A.; Gravett, Michael G.; Jamieson, Denise J.
Obstet Gynecol. 2015 Apr;125(4):789-800

【文献番号】o05100 (産褥熱、母体感染、子宮内膜炎)

乳腺炎、特発性肉芽腫性乳腺炎、病因、治療、コレチコステロイド、MTX.....13

特発性肉芽腫性乳腺炎は病因が不明な独立した良性乳房疾患であるが炎症、感染、ホルモン因子などを含むいくつかのトリガーとなる要因が考えられている。手術を行う場合、あるいは手術を試みない場合にはcorticosteroidとMTXがこれらの患者の治療法の選択肢となる。

Treatment for and Clinical Characteristics of Granulomatous Mastitis
Sheybani, Fereshte; Sarvghad, MohammadReza; Naderi, HamidReza; Gharib, Masoumeh
Obstet Gynecol. 2015 Apr;125(4):801-807

【文献番号】 o05400 (乳腺炎、乳汁分泌、乳房疾患)

癒着胎盤、腔出血、分娩週数、出血量、合併症、前回帝王切開.....16

癒着胎盤の症例において分娩週数の上昇に伴って分娩が必要となる腔出血を認める尤度は低下した。妊娠6週以降では大部分が出産に至り、出血を伴わなかったものにおいてはほぼ90%にも達した。癒着胎盤が疑われた場合に早産を考慮すべき症例もあるが、今回の知見から考え分娩計画は個別的に判断すべきであることが示唆された。

Placenta Accreta and Vaginal Bleeding According to Gestational Age at Delivery
Rac, Martha W.F.; Wells, C. Edward; Twickler, Diane M.; Moschos, Elysia; McIntire, Donald D.; Dashe, Jodi S.
Obstet Gynecol. 2015 Apr;125(4):808-813

【文献番号】 o04200 (前置胎盤、癒着胎盤、常位胎盤早期剥離、臍帯異常、胎盤機能不全、前置血管)

癒着胎盤、分娩後出血、子宮摘出.....18

癒着胎盤は頻度が低いため、分娩後出血の上昇の一部にのみかかわっているが、子宮摘出を伴う分娩後出血のかなりの部分を占めるという結果が得られた。

Contribution of Placenta Accreta to the Incidence of Postpartum Hemorrhage and Severe Postpartum Hemorrhage
Mehrabadi, Azar; Hutcheon, Jennifer A.; Liu, Shiliang; Bartholomew, Sharon; Kramer, Michael S.; Liston, Robert M.; Joseph, K.S.; for the Maternal Health Study Group of the Canadian Perinatal Surveillance System (Public Health Agency of Canada)
Obstet Gynecol. 2015 Apr;125(4):814-821

【文献番号】 o04200 (前置胎盤、癒着胎盤、常位胎盤早期剥離、臍帯異常、胎盤機能不全、前置血管)

endometrial ablation、妊娠、中絶、敗血症性流産、腹式子宮摘出術.....20

endometrial ablation 後に妊娠が成立することは稀である。今回、42歳の女性がendometrial ablation後に妊娠に至り、癒着胎盤と診断された。患者は中絶を望み薬剤による中絶が試みられ致死量のジゴキシンを羊水腔に注入されたが、その後敗血症性流産に至り腹式子宮摘出術が必要となった。

Septic Abortion With Placenta Accreta in Pregnancy After Endometrial Ablation
Gill, Lisa A.; Baldwin, Elizabeth; Lessard-Anderson, Collette; White, Wendy
Obstet Gynecol. 2015 Apr;125(4):822-824

【文献番号】 o04800 (異常分娩関連事項)

胎児発育不全、臍帯動脈、収縮期/拡張期比、複合的新生児合併症、計画的分娩.....21

胎児発育不全の患者において臍帯動脈収縮期/拡張期比が上昇しているものと正常なものにおいて、分娩週数はそれぞれ37週と39週であったが、複合的新生児疾患の発現率に差異は認められなかった。胎児発育遅延を認め収縮期/拡張期比が上昇していたとしても、妊娠37週における計画的分娩によって良好な結果を得ることができる。

Perinatal Outcomes With Normal Compared With Elevated Umbilical Artery Systolic-to-Diastolic Ratios in Fetal Growth Restriction
Maggio, Lindsay; Dahlke, Joshua D.; Mendez-Figueroa, Hector; Albright, Catherine M.; Chauhan, Suneet P.; Wenstrom, Katharine D.
Obstet Gynecol. 2015 Apr;125(4):863-869

【文献番号】 o01500 (胎児合併症、胎児発育)

単胎妊娠、SGA、双胎妊娠、リスク因子、再発率.....24

単胎妊娠において早産やSGAの既往歴を有するものにおいては、その後の双胎妊娠において同様な問題をみるリスクは上昇した。双胎妊娠におけるネガティブな臨床結果の病態生理にかかわる外因的メカニズムは、単胎妊娠における外因的メカニズムと重複しているものと考えられる。

Preterm Birth or Small for Gestational Age in a Singleton Pregnancy and Risk of Recurrence in a Subsequent Twin Pregnancy
Fox, Nathan S.; Stern, Erica; Gupta, Simi; Saltzman, Daniel H.; Klausner, Chad K.; Rebarber, Andrei
Obstet Gynecol. 2015 Apr;125(4):870-875

【文献番号】 o01300 (早産、切迫早産、子宮収縮抑制、診断、治療、リスク因子、モニタリング、ACS、ステロイド)

流産、早産、低用量 aspirin、葉酸、無作為対照試験26

妊娠の成立前に低用量 aspirin の使用と早産率との間に相関は認められなかったが、分析法の統計的パワーが低いことがこのような結果に関わっていると思われる。aspirin の有益性を示唆する傾向が認められたことから、さらに研究を進める必要がある。

Low-Dose Aspirin and Preterm Birth: A Randomized Controlled Trial

Silver, Robert M.; Ahrens, Katherine; Wong, Luchin F.; Perkins, Neil J.; Galai, Noya; Leshner, Laurie L.; Faraggi, David; Wactawski-Wende, Jean; Townsend, Janet M.; Lynch, Anne M.; Mumford, Sunni L.; Sjaarda, Lindsey; Schisterman, Enrique F. *Obstet Gynecol.* 2015 Apr;125(4):876-884

【文献番号】 o01300 (早産、切迫早産、子宮収縮抑制、診断、治療、リスク因子、モニタリング、ACS、ステロイド)

うつ状態、妊婦、産褥期、エジンバラ産褥抑うつスケール、自殺願望、自殺念慮.....29

抑うつのスクリーニングを受けた周産期の女性において3.8%が自殺念慮を有していたが、その中の1.1%が自殺のリスクが高いと判定された。このような知見は緊急の評価やケアを必要とする少数のサブグループを特定するために自殺念慮を有するものを系統的に評価する必要性があることを示唆するものである。

Suicide Risk Among Perinatal Women Who Report Thoughts of Self-Harm on Depression Screens

Kim, J. Jo; La Porte, Laura M.; Saleh, Mary P.; Allweiss, Samantha; Adams, Marci G.; Zhou, Ying; Silver, Richard K. *Obstet Gynecol.* 2015 Apr;125(4):885-893

【文献番号】 o12210 (妊産婦管理、高齢妊娠、若年妊娠、肥満、糖尿病、運動、抑うつ)

避妊法、ダイアフラム、避妊用ゲル、受容度、避妊効果32

避妊用ゲルと併用し一定規格のダイアフラムを用いたところ、標準的なダイアフラムと比較し同様な安全性と有用性が認められ、受容できる避妊法であることが確認された。

Contraceptive Efficacy, Safety, Fit, and Acceptability of a Single-Size Diaphragm Developed With End-User Input

Schwartz, Jill L.; Weiner, Debra H.; Lai, Jaim Jou; Frezieres, Ron G.; Creinin, Mitchell D.; Archer, David F.; Bradley, Lynn; Barnhart, Kurt T.; Poindexter, Alfred; Kilbourne-Brook, Maggie; Callahan, Marianne M.; Mauck, Christine K. *Obstet Gynecol.* 2015 Apr;125(4):895-903

【文献番号】 r12200 (避妊、経口避妊薬、妊娠中絶、IUD、IUS、人口問題、リスク因子、スクリーニング)

子宮摘出術、術式、手術経路、肥満、BMI、合併症、良性疾患34

良性疾患に対して行われた子宮摘出術を調査したところ、BMI の上昇は腹式全子宮摘出術の実施頻度の上昇と相関し、腔式全子宮摘出術および腹腔鏡併用腔式子宮摘出術の実施頻度の低下と相関するという結果が得られた。しかし、BMI は腹腔鏡下全子宮摘出術の実施頻度とは相関しなかった。サブグループ別に分析したところ、BMI の上昇は手術時間の延長と相関し、腹式全子宮摘出術は手術創部の感染の上昇と相関した。

Association Between Obesity and the Trends of Routes of Hysterectomy Performed for Benign Indications

Mikhail, Emad; Miladinovic, Branko; Velanovich, Vic; Finan, Michael A.; Hart, Stuart; Imudia, Anthony N. *Obstet Gynecol.* 2015 Apr;125(4):912-918

【文献番号】 g07500 (婦人科手術、子宮摘出術、核出術、付属器摘出術、予防的手術、尿路系手術、新術式)

産科出血、分娩後出血、血液回収、再輸血、実施頻度36

術中の血液の回収は多くの患者に試みられているが、わずかに21%の患者においてのみ十分な血液が回収され再輸血が実施された。出血をみた患者あるいは帝王切開兼子宮摘出術を受けた患者において術中に血液の回収を試み再輸血が行われる割合は高かった。

Red Blood Cell Salvage During Obstetric Hemorrhage

Milne, Megan E.; Yazer, Mark H.; Waters, Jonathan H. *Obstet Gynecol.* 2015 Apr;125(4):919-923

【文献番号】 o05200 (産科ショック、子宮復古不全、分娩後出血、貧血、子宮動脈塞栓術、止血法)

妊娠、火傷、合併症、形成術、レーザー療法38

小児期における腹部を中心とした広範な火傷を負った既往のある妊婦に、腹壁の伸展を妨げるような瘢痕が認められたためレーザーによる形成手術が行われた。妊娠中に2回のレーザー療法を受け、妊娠40週4日で帝王切開によって健児を出産し、分娩後に状態の改善が認められた。

Ablative Fractional Laser Resurfacing for Abdominal Scar Contractures in Pregnancy

Cox, J. Austin; Dainer, Michael; Shumaker, Peter R. *Obstet Gynecol.* 2015 Apr;125(4):924-926

【文献番号】 o03800 (妊娠合併症、内分泌疾患、偶発疾患、悪性腫瘍、血栓症、薬剤、STD)

経膈分娩、第3度裂傷、第4度裂傷、リスク因子、手術的経膈分娩、肩甲難産38

第3度および第4度裂傷のリスクは産科的手術や肩甲難産と最も強い相関を示した。このような知見から考え、手術的経膈分娩を少なくすること、ある程度の帝王切開を増やすことによって、第3度および第4度裂傷の発現率はある程度抑制することになるのではないかと思われる。

Evaluation of Third-Degree and Fourth-Degree Laceration Rates as Quality Indicators
Friedman, Alexander M.; Ananth, Cande V.; Prendergast, Eri; D'Alton, Mary E.; Wright, Jason D.
Obstet Gynecol. 2015 Apr;125(4):927-937

【文献番号】 o05500 (頸管裂傷、会陰裂傷、母体損傷、QOL)

大規模調査、母体死亡、死亡原因、リスク因子、心血管疾患、子癇前症、子癇、出血、静脈血栓塞栓症、羊水塞栓40

妊娠が関わる母体死亡は一つの臨床的問題とみなすべきではなくいろいろな因子が関わっており母体死亡を減少させるためには個々の死亡原因を詳細に調べる必要がある。母体死亡の5大死亡原因に関わる因子は多様で予防の可能性も異なり、寄与因子にも差異が認められるが、出血と子癇前症は最も改善可能な因子といえる。これらの知見は病院、州および全国の母体安全プログラムに有用な情報である。

Pregnancy-Related Mortality in California: Causes, Characteristics, and Improvement Opportunities
Main, Elliott K.; McCain, Christy L.; Morton, Christine H.; Holtby, Susan; Lawton, Elizabeth S.
Obstet Gynecol. 2015 Apr;125(4):938-947

【文献番号】 o10200 (母体死亡、妊産婦死亡、母体合併症)

帝王切開、VBAC、試験分娩、予測モデル、予測精度43

母体胎児医学のネットワークの登録システムが作成した予測モデルに基づいてVBACの成功率を予測したところ、2回の帝王切開の既往歴のある女性において認められた実際のVBACの成功率と類似の値が得られた。

Validation of a Vaginal Birth After Cesarean Delivery Prediction Model in Women With Two Prior Cesarean Deliveries
Metz, Torri D.; Allshouse, Amanda A.; Faucett, Allison M.; Grobman, William A.
Obstet Gynecol. 2015 Apr;125(4):948-952

【文献番号】 o06400 (帝王切開、合併症、VBAC、試験分娩、リスク因子、子宮破裂、子宮摘出)